

# 令和8年度事業計画書

令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

## 1. 基本方針

シルバー人材センターの役割は、全国的な少子高齢化や労働力不足を背景にした、「労働力の提供」に留まらず、高齢者への「生きがいづくり」と「地域社会への貢献」の両立が求められています。

そうした中、センターを取り巻く環境は大きく変化しています。令和7年4月「改正公益認定法」が施行され、これまでの厳しい収支制限が緩和され、中長期的な事業運営が可能になると同時に組織運営の健全性を対外的に示すためのルールが強化されました。また、インボイス制度への対応やフリーランス法への適応など、組織運営の大きな転換期となっています。

これからのセンターは単なる「仕事の仲介所」ではなく、高齢者が「生涯現役」で地域社会に貢献し、繋がりを持ち続けるための交流拠点としての役割が、ますます重要になってきます。

今後は会員の多種多様な技能、技術を適格に把握し、既存の就業に拘らない新たな就業開拓や、就業困難な会員でもセンターの活動に関わり交流可能な制度の検討など、減少傾向にある会員の増強及び退会抑制が課題となります。課題解決に向けて、会員、役員、事務局が一丸となって取り組んでまいります。

よって、下記事項を重点項目として取り組み、組織の活性化、効率化を図ってまいります。

- (1) 健康で働く意欲を有する会員には、公平・適正な就業機会を提供できるよう各種事業の整備拡充を図る。
- (2) 会員、役員、事務局との円滑な意思疎通を図り、組織としての一体感の醸成と活性化を図る。また、外部役員を起用し、客観的な視点を取り入れる体制づくりを推進する。
- (3) センターの事業内容等の理解協力が得られるよう、内外に対して普及啓発活動の強化充実を図る。
- (4) 会員の居住地域に密着した組織活動を推進するため、地域社会の市場調査とこれに対応可能な会員の増強と効率、効果的な運用とその活用を図る。

- (5) 健康で安全に就業できるよう、安全、健康施策、熱中症対策の強化充実とともに、緊急時の連絡体制整備を図る。
- (6) 会員増強目標値として、全国平均である粗入会率1.6%、会員数520名を目指し会員増強策を推進する。  
(粗入会率…市内60歳以上人口に占めるセンター会員数の割合)
- (7) シルバー交流サロン「ふじのゆめ」については更に地域に密着した高齢者の憩いの場並びに情報発信基地とする。

## 2. 事業計画

### (事業活動)

- (1) 適正就業化策の効果的展開を図り、その基本的考え方の周知徹底と、職群班の充実を図り適正に運用する。
- (2) 地域社会の労働需要を的確に把握し、労働不足並びに女性参画社会に対応した事業普及拡大を図る。
- (3) 会員に対し就業相談並びに就業情報の迅速化を図り、就業希望会員のニーズを的確に把握し、そのニーズに適した就業開拓等を行い就業提供に結びつける。
- (4) 会員の更なる資質向上を図るため、各部門から研修必要事項を調査把握、具体的展開を図るとともに、静岡県シルバー人材センター連合会が主催する講習事業に積極的に参画する。
- (5) デジタル社会におけるセンターの経営基盤強化を図る観点から、シルバーの事業体制並びに会員のデジタル環境、整備、利用を促進する。
- (6) 入会説明会を改善し、入会手続きの迅速化を図る。
- (7) 労働者派遣事業については、法令遵守及び適正就業の観点から更なる活用を図る。
- (8) フリーランス法施行を契機とした、新たな契約方式（包括的契約）については、契約関係を理解し、会員業務仕様書の発行や就業サポートを適切に推進する。
- (9) 有料職業紹介事業の円滑な推進を図る。
- (10) これら事業活動の拠点となる伊東市シルバーワークプラザを伊東市からの指定管理要綱に基づき、適正な維持管理に努める。

(総務財政活動)

- (1) 地域の経済状況を的確に把握し、常に事業実施状況の調査分析を行うと共に、収支状況を把握して適切に対処することにより、健全な財務体質の向上に努める。
- (2) 公益社団法人として諸規程の整備とコンプライアンスの遵守を図り、更なる組織体制の強化を構築する。
- (3) 事務局及び関連部門と連携して、組織の効率化、活性化の諸施策を検討実施する。事務処理のあり方を見直し、文書電子化、デジタル化を主体にDX推進に取り組む。
- (4) 国並びに全シ協の推進する包括的契約については、十分な調査研究をし、会計処理及び財政面においても整備強化を図る。
- (5) 自然災害発生等による緊急事態（会員および職員の業務継続に重大な支障が生じる事態）に備え、対策の調査研究を行い、整備する。

(普及啓発活動)

- (1) 今後更なるシルバー事業の意義と重要性を地域社会に周知し、公益社団法人としての役割を確立させる。
- (2) シルバー事業の普及と宣伝を図るための事業を企画する。
- (3) 季刊紙「シルバー伊東」並びに「ホームページ」の充実を図り、これらを通じ、シルバー事業の普及啓発を図る。
- (4) 地域社会に更なるシルバー事業の周知を図り、会員増強、中でも女性会員増強のため立ち上げた「女性委員会」の整備強化を図る。
- (5) 地域社会への貢献と連携強化を図るため、社会奉仕、各種ボランティア活動を企画立案し、これらを通じ更なるシルバー事業の普及啓発を図る。
- (6) 地域班の更なる充実を図るため「地域活性化委員会」を整備し、これを中心とした会員同士の連携を強化し、これらを通じシルバー事業の普及啓発を図る。
- (7) 会員間の互助、融和精神を図り、センターのイメージ向上を図るため、「会員互助会」を応援し、相互協力を図る。

(安全推進活動)

- (1) 安全第一の目標を達成するため未然防止を重点事項に掲げ、安全推進部の巡回指導を中心にその強化充実を図る。
- (2) 当センターが定める安全就業対策強化要綱の周知徹底を図るとともに、常に現状に則した安全対策を検証する。
- (3) 安全は全てに優先するとの原点に立ち返り、効果的安全対策を推進するために、健康維持管理と総合的交通安全の重要性の啓蒙活動を行う。
- (4) 安全巡回に併せ、発注者との綿密な連携強化を構築し、一層の安全対策を図ると共に、新たな就業機会を模索する。
- (5) 安全対策の一環として、作業班単位で各作業場所における危険を事前に予知し、安全に対策を講ずるための「危険予知活動（KY活動）」を実施する。

(独自事業活動)

- (1) 現在進行中の各種独自事業の更なる改善拡大を図るとともに、新たな独自事業の調査研究を行う。
- (2) 各種独自事業の運営にあたり市場調査等を行い、地域社会の高齢者が参加しやすい運営を図る。
- (3) 各種独自事業で実施可能な講習等を企画・立案し、更なる就業機会の拡大を図る。
- (4) 各種独自事業運営については、行政並びに各種団体と連携を密にし、地域の特に高齢者世代の求める情報を収集し、地域社会に発信するためシルバー通信「にぎわい」の活用を図る。
- (5) 地域に密着した各種独自事業運営を行うことにより、更なるシルバー事業の理解を深め、普及啓発・会員増強・就業機会の拡大を図る。